

構成団体

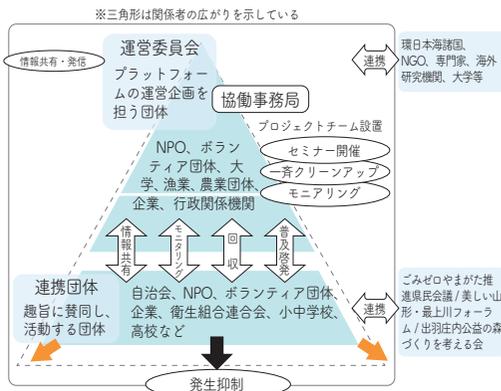
住民・民間団体

- 東北公益文科大学 ■ 鶴岡工業高等専門学校
- NPO 法人 庄内海浜美化ボランティア
- NPO 法人 パートナースHIPオフィス
- NPO 法人 美しい庄内
- NPO 法人 庄内海岸のクロマツ林をたたえる会
- 油戸住民会（鶴岡市） ■ 由良自治会（鶴岡市）
- 鶴岡市ボランティア連絡協議会
- 全農山形県本部庄内統括事務所
- 山形県漁業協同組合
- 山形県商店街振興組合連合会
- 株式会社 JVC ケンウッド山形
- 株式会社宮島屋旅館 ■ イオン三川店
- 株式会社中幸製作所 ■ 株式会社荘内銀行
- 前田製管株式会社 ■ 酒田「小さな親切」の会

関係行政機関

- 国土交通省酒田河川国道事務所
 - 国土交通省酒田港湾事務所
 - 鶴岡市（廃棄物対策課）
 - 酒田市（環境衛生課）
 - 遊佐町（地域生活課）
 - 山形県
県土整備部港湾事務所
山形県庄内総合支庁
（連携支援室 / 水産振興課 / 河川砂防課 / 環境課）
- （ 25 団体 2018/12 現在 ）

組織のイメージ図



ごあいさつ

これからの10年に向けて

美しいやまがたの海プラット
フォームの設立から10周年を迎え
ました。

この間、海岸クリーンアップの情
報共有と発信により、海ごみが、内
陸由来の生活系のものであること、
そしてそのほとんどがプラスチック
類であることが理解されてきたと
思っております。

これも各主体の皆さまのご尽力の
賜と心より感謝申し上げます。

さて、これからの10年に向けての
課題ですが、マイクロプラスチック
の現状を見れば“どうやってプラご
みを減らすか”の一言に尽きます。
皆様とともに真剣になって取り組ん
でいきたいと考えております。

美しいやまがたの海プラットフォーム
代表 小谷 卓

海のごみ問題の出前講座

毎年10回程度、「海のごみ」をテー
マに庄内地域で出前講座を開催してい
ます。

どうして海にごみが出てくるのか、
どうすればごみを減らせるのかを映像
やグラフを用いてわかりやすく説明し
ます。10名以上集まれば、学校だけで
なく友人同士・サークル活動などのお
申し込みもOK！

いつもおこなっているボランティア
清掃や環境学習の機会に、「ごみでつな
がる海とまち」の視点を取り入れては
いかがでしょうか。

お気軽にお問い合わせください！



協働事務局

- ・ 東北公益文科大学 吳尚浩研究室
- ・ NPO 法人 パートナースHIP オフィス
- ・ 山形県庄内総合支庁 環境課

問合わせ先

山形県庄内総合支庁環境課 廃棄物・海岸漂着物担当
〒997-1301 山形県東田川郡三川町大字横山字袖東 19-1
電話 0235-66-2111(代) 66-4914(直)

ウェブサイト カワカラ・ウミカラ

<https://yamagatapf.info/>



美しいやまがたの海 プラットフォームのあゆみ

プラットフォーム設立

地域の大きな課題となっていた海ごみ問題解決のため、関係者間の情報共有を目的に設立しました。

「美しいやまがたの海づくりプラン」 キックオフイベント開催

団体ウェブページ・環境教育サイト
「カワカラ・ウミカラ」開設

環境学習に使える画像素材の提供
を目的にスタートしました。

最上川・赤川ごみマップを公開

2013年、2014年度におこなった鶴岡工業高等専門学校佐藤司研究室による漂着・散乱ごみ調査と東京理科大学水理研究室（二瓶教授）による流下ごみ調査の成果を、最上川・赤川ごみマップとして1枚の地図にまとめました。



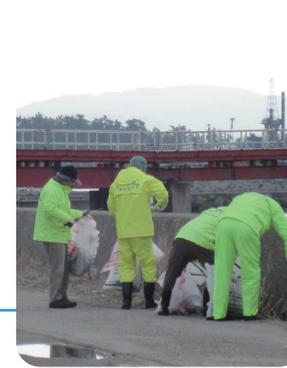
10周年記念事業 最上川河口右岸クリーンアップ開催

10周年記念事業
「SCOP ウミコト」（遊佐町）開催
「クリーンアップ in 湯野浜」開催

「美しいやまがたの海」

クリーンアップ運動スタート

毎年6月～7月の間に沿岸部でおこなわれる海岸清掃活動のうち、だれでも参加できる会場の情報をとりまとめて広報しています。2018年まで、延べ23,285名が参加しています。



「ハタハタプロジェクト」スタート

釣り場の散乱ごみ対策の啓発と回収活動。
※NPO 法人庄内海浜美化ボランティアが2005年から実施していた釣場啓発活動をプロジェクト化しました。

第12回 海ごみサミット2014山形・庄内会議 一般社団法人 JEAN と共催

国、自治体、NGO/NPO、民間事業者、研究者、住民など、海洋ごみ問題に向き合う関係者が一堂に会し、国内・国外での取組み事例を参考に情報共有を図り、森・川・街・海での一体的な取組みの方策を議論しました。

このサミットをきっかけに、流域における対策を進めるべく、全国川ごみネットワーク、川ごみサミットの枠組みがスタートしました。



2015
3

「海辺に落ちていたモノでオブジェを作ろう」

WORKSHOP を開催

河北町出身の造形作家犬飼とも氏を講師に海ごみを使ってアート作品を創るワークショップを県内3会場で開催。夏休み中の小学生の親子を中心に100名以上が参加しました。



2015
8

2016
9

いぐべ、飛島。スタート

山形県学生応援クリーンアップ事業

2016年には、海ごみ問題に取り組む若手ボランティアリーダーの育成を目指して、NPO 法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA) と連携して150人規模の飛島、庄内海岸のクリーンアップがスタートしました。

2018年までに延べ430人が参加、累計6トン以上の海ごみを回収しています。



2018
7

2018
10

海のごみ問題

海岸を埋めつくすたくさんのごみ。海のレジャーや観光の邪魔をするだけでなく絡まりや誤食による生物被害にも繋がっています。

マイクロプラスチックがプランクトンや小魚の中からも見つかっており、私たち人間の食生活への影響が心配されています。



マイクロプラスチック

5mm以下のプラスチック破片や粒子です。全世界の海や河川だけでなく、魚や海鳥の消化器官、人の排泄物からも見ついています。有害な化学物質を吸着する特性があり、海洋生態系への化学汚染が懸念されています。

